

[0017]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2002年

<https://doi.org/10.15017/6249>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 17, 2003-07. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :

生体防御医学研究所における2002年度(平成14年度)の研究活動の概況

生体防御医学研究所長 渡邊 武

本研究所では、生体防御医学に関するこれまでの成果を、進展著しい機能ゲノム科学およびポストゲノム科学を基盤とした新しい生体防御医学へと発展させることにより、多因子疾患の解明や難治性疾患の克服に向けての研究を一層促進することを目的として、平成13年度から大幅な改組を行いました。そして本年度に新しい研究体制がほぼ整いました。さらに昨年4月から、先端的、学際的な研究を一層推進するため多様な人材を確保し、もって研究の活性化を図るべく、九州大学でははじめて全教官に任期制を導入し本年で2年目を迎えています。

現在、生体防御医学研究所の教官数は50余名を擁し、80数名の大学院生のほか、多くの研究生、ポスドク等の非常勤研究員、技官、研究補助員とともに200名近い方たちが研究活動に邁進いたしております。さらに、本年は、文部科学大臣が提唱された「21世紀COEプログラム」の「生命科学」の分野で、生体防御医学研究所で行われている先端的基礎研究が、理学研究院生物学研究科と合同で最高水準の生命科学系の研究教育拠点の一つ(「統合生命科学」)として認められました。

平成14年11月には、生体防御医学研究所として創立20周年を迎えたことを記念する式典と祝賀会を、文部科学省研究振興局長、九州大学総長、大阪大学総長、九州大学医学研究院長、研究所名誉教授、卒業生、旧職員の方々をはじめ大勢の方々の御列席を仰ぎ盛大に催すことが出来ました。

本年度研究費としては、科研費の他に文部科学省21世紀型革新的先端ライフサイエンス技術開発プロジェクト、科学技術振興事業団戦略的基礎研究推進事業、同さきがけ研究、さらに、日本学術振興会からの委託による未来開拓学術研究推進事業、NEDO等々による多くの競争的研究資金を獲得し、21世紀を展望した先見性・創造性に富む研究が展開され多大な成果が発表されています。

附属病院においては先端医療開発、高度先進医療の実施、特にがんのペプチド療法の実施、がんの遺伝子治療に向けた準備等を行うとともに、地域の中核的医療機関として重要な役割を果たすべく病院組織の再編と改善に取り組んでいるところであります。平成15年10月から実施が予定されている生体防御医学研究所附属病院と医学部附属病院、歯学部附属病院との統合にあっては、三病院の一層の連携により、「九州大学病院」として社会の新しいニーズに対応して機能することが期待されています。

生体防御医学研究所がこのように常に発展する形で20周年を迎えることが出来たのは、ひとえに関係諸氏のご指導とご尽力、教官、大学院生、職員の方々の絶え間ない熱意と努力、そして多くの方々の深いご理解とご支援によるものであります。